

THE INTERVIEWS in Japan

Section 3:

JIM FOETUS

ジム・フィータス

インタビューと文○小林正樹
by Masaki Kobayashi

音楽を心安らぐもの、楽しいもの、もしくは気分をハイにしてくれるもの、あるメッセージを伝えるものとしてとらえるとすれば、ジム・フィータスの音楽はその範囲から大きく逸脱してしまう。彼の音楽は、常人にはむしろ嫌悪感を引き起すであろうし、神経を逆なでするような不快感をもたらすであろうからだ。

オーストラリアのメルボルンに生まれ、ロサンジェルス、そして18歳でロンドンに移ってきたジム・フィータスことジム・サールウェルは、そのフィータス(胎児)という悪いイメージの変名だけでなく、レコードごと、プロジェクトごとに様々な名前を使っている。マーク・アーモンド、ニック・ケイヴ、E・ノイバウテン、リディア・ランチ、スワンズらとの音楽活動ではクリント・ルイン、自分自身の作品では“フィータス”をキー・ワードにして変名を多用しているが、彼にとってはこうした行為自体がすでに活動の一部となっている。

「その時で個人がやることについて、一定のイメージを継続することが嫌いだ」そして、ホコ先を音楽業界に転じて、「アーティストのイメージを固定するような音楽業界のシステムは、物を作り出すという行為からおよそかけ離れたものだ。ヘア・スタイルとか服装とか、アーティストがどういう人間だとかは、音楽自体にはまったく関係が無い」

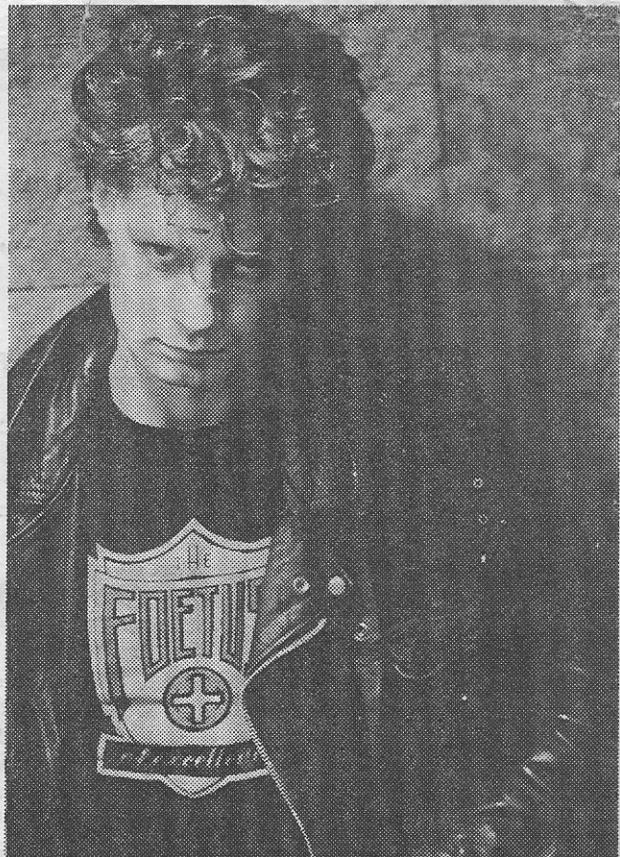
それゆえに、レコード・ジャケットには一切自分の写真は使用しないという。そしてジャケットのデザイン自体も自分でするようにしているようだ。

「自分の表現しようとしていることは、非常に個人的なものだから、他人の主觀が介入することはできるだけ避けるようにしている。

PRESENTS!

過激なステージから下りると、穏やかで素敵な別人になってしまうジムからは、①Tシャツ入りメタル・ボックス(貴重モノ!)を1名様に、②サンイン入り詩集を5名様にプレゼント。現在ニューヨークから東京へ向けて空輸中のため、モノは見てのお楽しみ! 欲しい物の番号を明記の上、御応募ください。締切、宛先はP.134と同じです。

俺が引きずり出す
内なる狂気を認識せよ



pic: Midori Tsukagoshi / music life

だから、できるだけの部分を自分でやろうとしている。しかし、それがあまりにも個人的で、自分自身の内部の奥深くまで入り込んでいるので、場合によってはあまり直接的に出してしまったことが、レコードのもつコンセプト自体をゆがめてしまうことがあるので、ためらうこともある」

「全てのレコードについて、彼一人で詞を書き曲を作り、プレイし、プロデュースしていることを考えれば、レコードそれ自体がかなり個人的な“作品”ということになるのだろうか。それだからこそ、ジム・フィータスの作り出す音楽には、極端なまでの強迫感を伴った緊張があるのだろう。新作『釣』においても、また初来日でのステージでも、彼の持つ暴力性や狂的な緊張感は、彼一人のパフォーマンスによるものだった。

「精神的な様々な段階の外的圧力によって、結果的に極限まで緊張感を高め、破壊的になるというのか、今回のLPの言いたかったことだ。行きつく所が破壊だというメッセージを伝えたかった」

こうした破壊衝動は、いわばひどく個人的なものであり、かつ誰でも心中に持っているが、普段は心の奥底に秘められているものだという。それをあらためて目の前に引き出し、見せつけることによって、日常性の下に

隠された狂気を認識させるというのだ。

「ポジティヴ・ネガティヴィズムと呼んでいるのだが、プラスのものを引き出すためのマイナス要素がある」——内なる狂気をさらけ出し、認識することによって、新たなる地平を切り拓こうとするのだろうか。しかし、こうした受け取られ方自体をも、どうでもいいことだとしている。

「自分がしていることは、自分自身のためにやってきたのであって、他人がどう考えようとかまわない。誤解されようがそれも大いに結構だ。むしろ音楽業界のやり方にぶり廻されて、市場性だけを考えて何かを作るよマンだ。逆にそういうものに挑戦していく立場としてはいいんじゃないかな、これで。ボッシュなんかを支持している奴にはクソをひっかけてやりたい」

なんともただならぬ発言ではあるが、ロックやパンクの持っていた現状打破の根源的パワーをアーティスティックに昇華させた姿がそこにあるような気がしてならない。英語文化圏外にいる者にとっては、彼の放出するエネルギーの半分すら感じられないかもしれないが、聴く者にとって彼の音楽はパンダラの箱に他ならないだろう。その箱には、破壊、狂気、暴力といった、人間に本質的に内在している隠れた衝動が詰め込まれているのだ。